



平成 23(2011)年 11 月 4 日
社団法人日本造船工業会

プレス資料

第 20 回 JECKU TEM(造船首脳会議)報告

日 程: 2011 年 10 月 27 日(木)
場 所: 韓国・済州島 済州新羅ホテル(The Shilla Jeju)
出 席 者: 日本 釜・日本造船工業会(SAJ)会長他 26 名
欧州 アントニーニ・ユーロヤーズ会長他 13 名
中国 李・中国船舶工業行業協会(CANSI)副会長他 20 名
韓国 南・韓国造船協会(KOSHIPA)会長他 19 名
米国 グレイニー・GD ナスコ副社長他 4 名
合計 82 名

議 題:

1. 基調演説
2. 世界経済動向
3. 船種別市場動向
 - 3.1. コンテナ船、ガス船
 - 3.2. バルカー、タンカー
 - 3.3. その他船種
4. 地域別造船市場動向
5. 新造船需給、建造能力
6. 造船コスト
7. 環境問題
8. CESS 報告
9. 議長声明最終化
10. 次回 JECKU 開催案内





会議概要:

- 世界経済の構造、造船市場動向、新造船需給と建造能力、造船コスト、環境問題について議論を展開した。
- 現在進行中の金融危機に端を発する世界経済減速への懸念を表明し、現在の造船市場は不確実性を含んでいることを認識した。
- 現在の造船市場が需給不均衡の拡大、新造船受注の減少、資機材価格の高止まり、船価の下落といった大きな諸課題に直面しているという意見を共有した。
- IMO で議論されている造船業に関連する国際的なルールや規制に対して、造船業界として共通意見を持つことの重要性を認識した。
- 造船業界として、環境保護のための排出物規制基準を歓迎し、環境に優しく技術的健全性を有する船舶の開発に向け不断の努力をしていく。
- 既に最新の船舶においては、エネルギー効率の十分な改良が達成されているため、造船業界として、関連業界ならび当局に対し、船腹代替促進への取り組みを支援することを求める。
- 次回 JECKU TEM は、2012年10月17(水)～19日(金)に米国・サンディエゴで開催する。





20th JECKU Top Executive Meeting

October 27, 2011, Jeju

Chairman's Note

The 20th JECKU Top Executive Meeting was held in Jeju, on October 27, 2011, attended by representatives from major shipbuilders in Japan, Europe, China, Korea and USA.

As in past meetings, the meeting covered common issues surrounding the world shipbuilding industry such as the global economic framework, shipbuilding market situation, supply & demand, cost development, and environmental issues related to shipbuilding. The participants had exchanged a free and open discussion on the issues and achieved a better understanding of mutual interests among the leaders in world shipbuilding circles.

At the Jeju meeting, the delegates expressed concerns over the slowdown in world economic growth, mainly connected with the ongoing financial crisis. Under such circumstances, they expressed concerns that the industry would suffer a blow and recognized that the world shipbuilding market is uncertain, even if the market recovered slightly in 2010 from 2009.

They also shared the opinion that the current shipbuilding market remains uncertain and face greater challenges, such as growing imbalance between capacity and demand, declining new orders, high material costs and falling ship prices. In this regard, they understood the common need to overcome the crisis and actively take





part in creating new market demands for the sound development of world shipbuilding industries.

In addition, the participants also acknowledged the importance of having a common voice concerning the ongoing discussions regarding international shipbuilding-related rules and regulations by the International Maritime Organization (IMO). The issue of energy efficiency design index (EEDI) adopted by IMO presents a new challenge for shipbuilders. They welcomed the measures to regulate emission from ships for environment protection and agreed not to spare efforts in developing eco-friendly and technically sound ships. The global shipbuilding industry commits to undertake maximum efforts to contribute to climate change mitigation by developing further advances in energy saving and greenhouse gas emission reduction. Shipyards underline that modern ships are already able to achieve substantially improved energy efficiency. The shipbuilding industry is therefore calling on shipping companies, financial institutions and other stakeholders as well as policy makers and regulators to support efforts for an enhanced fleet renewal.

In conclusion, all the participants agreed to make sustained efforts for the continued sound development of the shipbuilding industry and to intensify corporate social responsibility.

The USA shipbuilders will host 21st JECKU Top Executive Meeting in 2012. The delegates agreed to meet in mid-October 2012 in San Diego, California.

-End-





第 20 回 JECKU 造船首脳会議

(2011 年 10 月 27 日 於:韓国・濟州島)

議長声明

第 20 回 JECKU 造船首脳会議が 2011 年 10 月 27 日に韓国・濟州島で開催され、日本、欧州、中国、韓国、米国の主要造船会社の首脳らが一堂に会した。

これまでの会議と同様、今回の会議でも世界経済の構造、造船市場動向、新造船需給と建造能力、造船コスト、造船業に関連する環境問題等、世界の造船業を取り巻く諸問題について議論を展開した。会議出席者は、自由で率直な議論を交わし、世界の造船経営者間共通の関心事項へのさらなる理解が得られた。

会議出席者は、現在進行中の金融危機に端を発する世界経済減速への懸念を表明した。2010 年の造船業界は前年と比べある程度の回復は見せたものの、現在の状況下では再び打撃を受けかねないという懸念を示すとともに、現在の造船市場は不確実性を含んでいることを認識した。

また会議出席者は、現在の造船市場が需給不均衡の拡大、新造船受注の減少、資機材価格の高止まり、船価の下落といった不確かで大きな諸課題に直面しているという意見を共有した。この点に関して、造船業の健全な発展のために、この危機を





克服するとともに、新たな需要の創出に積極的に取り組むことの必要性を共有した。

加えて会議出席者は、国際海事機関(IMO)において現在議論されている造船業に関連する国際的なルールや規制に対して、造船業界として共通意見を持つことの重要性を認識した。IMO で採択されたエネルギー効率設計指標(EEDI)については、造船事業者にとって新たな課題となるものの、環境保護のための船舶からの排出物規制基準を歓迎し、環境に優しく技術的健全性を有する船舶の開発に向け不断の努力をしていくことに合意した。世界の造船業界は、省エネルギーと温室効果ガス排出削減分野での技術開発をさらに促進させ、気候変動緩和への貢献のため最大限の努力をしていく。既に最新の船舶においては、エネルギー効率の十分な改良が達成されており、造船業界として、海運会社、金融機関、その他関係業界ならびに政策決定機関、規制当局に対し、船腹代替促進への取り組みを支援することを求める。

最後に、全ての会議出席者は、造船業界の継続した健全なる発展のため持続的な努力をし、企業の社会的責任を強化していくことに合意した。

21 回目となる次回 JECKU 造船首脳会議は、米国がホストを務める。会議出席者は、2012 年 10 月中旬にサンディエゴで再会することを約束した。

以上

